

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
 発行責任者 平山 明裕
 編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会
 南会津郡小中学校校長協議会



『被災中の幸せ』

南会津教育事務所長

平山 明裕

この時期全国各地で水害の報道がありますが、私も令和元年に起きた東日本台風で被災した経験があります。近くの川が決壊し、避難所へ行きそびれた私は家族と自宅の2階に避難しました。家の中に流入した真っ黒い水が、階段を一段ずつ上がってくるのを見た時は生きた心地がしませんでした。床上浸水は70cmほどですみましたが、水が引いた後の1階は、一面汚泥に覆われ、ひどい悪臭でどこからどう手をつけたらいいのか途方にくれていました。

そんな時、「先生大丈夫かい？」と訪ねて来てくれた人がいました。教え子でした。差し入れを届けてくれるとともに、電気工事業者の彼は、泥のかぶったコンセントを点検して、安心して電化製品が使えるようにしてくれました。また次の教え子が来てくれました。清掃会社を営む彼は部下を連れ、専用の道具を使い、1階で生活ができるようにしてくれました。その後も次々と教え子たちが来てくれて、中には卒業以来久しぶりに会う教え

子や、お世話になった当時の保護者の方々もおおり、たくさん助けてもらいました。作業の合間に話す思い出話。被災した我が家は笑顔でいっぱいになりました。

何十年経っても、教え子たちとつながっている幸せ。教師の財産は「人」、教師の評価は数十年後と考える私にとって、教え子たちの訪問は教師冥利につきると感じましたし、熱をもって仕事をしてきて良かったなど、これまでの教師人生を振り返ることができました。被災も悪いことばかりではないな、と思う瞬間でした。

さて、教師不足が叫ばれて数年が経とうとしています。「ブラック」だの「働かせ放題」だのマイナスな言葉で表現されることもある教師という仕事ですが、教師という職業の尊さ、やりがい、子供たちの成長を見られる幸せ、そしてずっと続く人とのつながりについては、何も変わっていません。

「教師という仕事はとってもいいですよ。」目の前の子供たちにも是非お勧めしたいものです。



『自分自身の人間形成』

郡小中学校校長協議会長

我妻 雄比古

初任校2年目の時、「教育広報ふくしま」に寄稿させていただいた原稿を省略して紹介します。

『レスリング部の合宿所生活。それは、少々のことではへこたれない強い精神力を育ててくれた場でありました。合宿所の建物は、江戸寛政期に建造され、世田谷区では数少ない茅葺き農家、と言われる古家でした。障子と襖で仕切られ、勉強机もなく、布団が積まれただけの部屋で生活していました。ガラスの引き戸と障子だけの部屋は、冬になると冷たい隙間風が吹き込み、運動着や防寒具を着込んで布団に入るのですが、寒さは治まらず、口から白い息を吹きながら寝ていました。この襖仕切りの部屋も時には打ち上げ等の宴会場となり、仲間と楽しく過ごした日々は良き思い出となっています。合宿所生活で得たものは、社会生活の中での最も基本的なことであるように思います。それは、ルールを守ることや人間関

係の大切さなどです。

私は教師としてのスタートを切ったばかりですが、いろいろ考えさせられることがあります。例えば、教科指導では悩みの連続であり、部活動でもねらいになかなか到達できず生徒との間に溝を感じたりもします。先輩や同僚の中にあっては、年齢の差や人間関係のむずかしさなど多岐にわたります。しかし、私は教師2年生。大学の合宿所で培った「自分自身の人間形成」を永遠の課題にして、生徒と共に生き、喜び苦しみを分かち合うことができる指導者になれるようがんばっていきたいです。』

教職に就いて37年目となる現在、自分自身の人間形成を目標に掲げながら歩み続け、良き指導者になることができたのだろうか？校長職となった今でも日々様々な課題に直面し、判断に迷うことや悩む毎日です。「自分自身の人間形成」は今後も私自身の永遠のテーマです。

